

令和5年 8月の優しさ通信

目次

- (1)  自立して生活できる「健康寿命」 男女とも 70 歳超え
 - (2)  命守る対策 現場で共有 保育時ヒアリ・ハット 初の事例集
- ♥ 8月の福祉用具－福祉住宅改修の基礎知識 滑りにくい床の仕上げ**

(1) 自立して生活できる「健康寿命」男女とも 70 歳超え

- *自立して生活できる「健康寿命」が、男女ともに右肩上がり。
- *2019年の健康寿命は、男性は 72.68 歳、女性は 75.38 歳。
- *2010年比でそれぞれ 2.26 歳、1.76 歳延びました。
- *65 歳以上の就業者も年々増えています。
- (2023年 7月 17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 命守る対策 現場で共有 保育時ヒアリ・ハット

初の事例集 「抜け出し」「置き去り」多く

- *政府は全国の保育所や幼稚園で起きた子どもの置き去りなど、命の危険につながりかねない事例（ヒアリ・ハット）計 100 件を収集し、初の事例集を作成。
- *政府は「次元の異なる少子化対策」で保育士の配置を手厚くする方針を決定。
- *2022年 12月~今年 3月、保育所や幼稚園、認定こども園などの関連団体、自治体が独自に把握しているケースを収集。
- *過去 5年間に把握された計 100 件を掲載。
- *発生場所の内訳は、「送迎バス」7 件、公園などの「園外」25 件、「園内（室外）」29 件、「園内（室内）」39 件。
- *園内などからの「抜け出し」が 29 件で最多。
- *公園や教室での「置き去り」が 21 件、「見失い・行方不明」が 16 件。
- *園外保育中の「飛び出し」、倉庫やトイレへの「閉じ込め」、バスでの「降ろし忘れ」など。
- *通園バスには、今年 4月から置き去り防止のための安全装置設置が義務付け。
- *6月末時点では、完了予定を含めた設置件数は全体の 55.1%。

「死角」減らし事故予防

*職員の確認不足や安全マニュアルの不備が目立ち、保育士の目が届きにくい「死角」を減らす取り組みも必要。

*保育団体や自治体との意見交換では、「子どもは成長の過程で危ないことをするため、ヒアリ・ハットは避けられない側面がある」との指摘も。

*保育は危険と隣り合わせだという認識に立ち、事故の予防策をしっかりと取る必要があるとされました。

(2023年7月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



8月の福祉用具－福祉住宅改修の基礎知識

滑りにくい床の仕上げ

*高齢者の転倒事故の原因の一つに「滑りやすい床面」があげられています。

*「滑る」は、床面仕上げ（清掃の状態も含めて）と履物、高齢者の歩行時の足にかかる荷重方向の関係によって起こります。

*床板のみを滑りにくくすれば解決するわけではありません。

*まったく滑らない床は足が突っかかり、かえって危険です。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキスト・介護用品カタログより)

